

キャッチフレーズについて

■最初の素案

現行 : わたしたちのみどり、育てるみどり、活かすみどり

改定案 :

- ・みどりと人が紡ぐ笑顔の暮らし
- ・みどりが紡ぐ人の輪、みどりが織りなす笑顔の暮らし
- ・みどりと人が織りなすグリーンリビングこがねい

■委員の意見

笠原委員：「みんなでつくりつなげるみどりの小金井」。「みんなで」には、市、都、市民、ボランティア、学校及び町内会等、「つくり」は、新しく作ること、手入れすること等、「つなげる」は、みんなでつなげる、次の世代につなげる、生物の移動をつなげる、活用につなげるという意味を含む。

⇒福嶋委員：「みどりと人が織りなす笑顔のこがねい」。素案をもとに「つむぐ」という表現は一次元的なニュアンスを感じるので、「織りなす」の方が縦横の二次元的なイメージがあり、良いと思った。ただし、グリーンリビングは馴染まないと感じた。

⇒福嶋委員長：「みんなで育て活かすみどりの小金井」。

⇒椿副委員長：私は「みどりと人が共生するまち小金井」。「共生する」には、つくる、守る、活かす、全てを含んでいる。

笠原委員：市内のマンホールは小金井市のキャッチフレーズである「水とみどりのまち小金井」をテーマとしたデザインが施されている。

⇒串田委員：他の計画を見ても、様々なキャッチフレーズが設定されているが、言葉は異なるものの、趣旨は似たものが多い。普及啓発を図る段階で互いの関係がわかりにくくなってしまわないか。キャッチフレーズを統一することも考える。

【緑対審】

柳井委員：コロナで人と人のつながりをとても重要と感じられた。小金井市の20～30代の自死率が都の平均よりも非常に高いことも気になっている。みどりを守るだけでなく、人の生活にも潤いをもたらすものであってほしい。

犀川委員：基本方針のみどりの保全の前に、みどりに愛着を持ってほしいと思う。

矢向委員：愛着という意味では、計画のキャッチコピーに「武蔵野」という言葉はぜひ使ってほしい。地域性が感じられる。今示してあるものは一般的である。

犀川委員：みどりを保全してどのようなまちにしたいのか、理念があると良い

■現在策定中の計画のキャッチフレーズ

- ・第5次小金井市基本構想（将来像）

いかそうみどり 増やそう笑顔 つなごう人の輪 小金井市

- ・都市計画マスタープラン（まちづくりのテーマ）

つながる 人・みどり・まち 暮らしたい暮らし続けたいやさしさ溢れる小金井

※小金井がみどりのまちであることは、総合計画・都市マスでも言っている（赤字）

■上記を踏まえた、最終案

案1 みんなで育む 人とみどりが織りなす豊かなくらし

今回のみどりの基本計画では、以下が大きなテーマ

- ・民有地のみどりの減少

つまり、総合計画や都市マスより一歩進んだ フレーズにするためには
施策の特に必要な事項「みんなで」、「つくる・まもる・活かす=育む」といった観点が欠かせない。

「地域らしさ」については武蔵野もあるが、周辺自治体も同様である。
織りなすは、第3回の検討委員会でも改めて良い（縦横の二次元的なイメージがあり）という意見があった+養蚕学校の小金井の歴史を踏まえた言葉である。
「豊かなくらし」は将来像の解説と合わせる。

豊かさを感じるまち



案2 みどり時間 つなぐ人つなぐ未来 みどり時間 つなぐヒトつなぐミライ

新型コロナウイルス感染拡大の影響から新たな生活様式への転換が進む中、「おうち時間」という言葉がメディア等で注目されています。本市においても、おうちにいる時間と公園や野川などみどりで過ごす時間いわゆる「みどり時間」はコロナ禍の中で、市民の方々の癒しや健康増進につながる場として大いに活用され、みどりの価値が見直されてきております。

また、本市にある情報通信研究機構は日本標準時間を決めている機関であり、「時間」というフレーズは本市の特色を示すものであると考えます。

「つなぐ人（ヒト）」には、みどりを通じた人と人とのコミュニティ形成や恵まれたみどりで過ごす時間が増えることにより、みどりや小金井市への愛着が高まり、次世代の人へみどりを継承する意識の醸成につながることを示しています。

「つなぐ未来（ミライ）」には、みどりの多様な機能が生活の質を向上させ、持続可能な未来を形成するグリーンインフラの考え方を示しています。